

●自治会要望の事例から

## 地域のグラウンドを協働で整備

市では毎年、自治会に対して、身近な生活環境に対する要望の調査を行っています。自治会からはさまざまな要望が市に寄せられます。

槐・四日市自治会からは、地域の運動会などで使用する運動場を整備してほしいと市に要望がありました。しかし、このグラウンドは市有地ではありません。これまで運動会が近づく地域の人が草刈りやツタの除去を行ってきました。しかし、年々土地は荒れ、草刈りをしただけでは間に合わない状態になってきたことから、一昨年、地域で費用を出し業者が整地を行いました。今後はできれば、市に整地をお願いしたいということでした。

しかし、市の所有する機械では、草が伸びていけば、機械が入っていきません。そこで、整地を行う前の草刈りは住民、整地は市が行うというように、それぞれの役割を決め整備することにしました。また、整地後のグラウンド管理も地域で行っていくことにしました。

このように、市がすべてを行うのではなく、地域住民



でできることは自分たちでやることによって、結果的に、より良い地域になっていくというケースは決して少なくありません。

## まちかど

### ウォッシュング



## 能代港に響き渡る 迫力ある太鼓の音!!

6月5日(日)、能代港はまなす展望台前で「第3回太鼓フェスティバル in のしろ」が開催されました。集まった大勢の観客が、県内外から参加した14団体の熱い演奏に聞き入っていました。

## いつも元気



みんなあつまれ！ワイワイwai！

馬の絵(一) 「羽立・八幡神社(二)」

前回と同じ檜山羽立の八幡神社にある絵馬です。母体とありますが羽立は母体村の支郷(しごう)でした。その渡部藤吉が長男幸之助と奉納しています。長男の誕生を祝ったのか、健康を祈願したのか、どちらかでしょう。子を思う親の情が伝わってきます。絵師は「後素園光保七十七歳」とあります。檜山の絵師豊島後素(こうそ)です。後素は五十嵐蠹仙(ごせん)の弟子で、通称仲太(ちゆうた)、諱(いなな)を光保、号(ごう)を都山(とやま)、後素(こうそ)といました。天保九年の生まれで、この絵馬を描いた大正三年は七十七歳、大正九年に没しています。多賀谷氏の家臣で、戊辰戦争にも出兵、明治になってからは町役場に勤めて明治四十三年に助役で退任し、その後画業に専念しました。蠹仙(ごせん)の弟子ですから、武者絵(ぶしやえ)を得意としていました。ここにあげた絵も奔馬(ほんば)の動きや、それを押さえる御者(ごしや)の緊迫感がよく出ている絵です。馬は斑(まだら)に描き、神馬らしくして尻当ての緑の敷布(しきふ)、腹を覆う赤い布を紙垂(しで)に結び、その上に、御幣(ごへい)を挟んだ矢を刺し、小道具(こどうぐ)に工夫(くふう)を凝(こ)らしています。馬を曳(ひ)く御者(ごしや)は狩衣姿(かりぎぬ)に小袴(こはかま)を履(は)き、立烏帽子(たてゑぼし)をかぶせて、手綱(たづな)を強く握(にぎ)っています。人馬(ひとば)ともに足の運び方や、馬の尻尾(しっぽ)の振り方など、絵を引き締(し)めています。簡単な額(がく)を回した大絵馬(おほえま)です。(古内)



## のしろ道遙

## 歴史と民俗のあいだ